

# 報 籾 籠 屋 新 聞

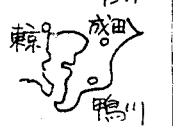
ラライバル紙ができた。まはるは「ハレ」ショートネットの新しい新聞である。

「自然」と民族と文化のネット・ワーキング  
 向う一年間のキャンピング  
 自然復元公園がスタート  
 長野県大鹿村で

南アルプス赤石岳の長野県  
 がれ登山道の最後の集落に  
 あたるのが大鹿(おおしか)村  
 釜沢部落である。標高  
 千メートルある。この三正坊  
 (さんしようぼう)と言え、小  
 釜(こぶ)川沿いにできた  
 平地で「ネット・ワーキング」が  
 開始した。

も危ういものとなっている。  
 釜沢部落だけでも四ヶ所  
 に大きな防犯ダムができ、  
 奥の雑木は倒れ、  
 清流に風まれていながらも  
 小魚二匹泳ぎを見せない。  
 さらに加えて、大規模な観  
 光開発と産業廃棄物  
 処理場の液が迫ってきて、  
 どうしたらこの液を止  
 めることが出来るか。どう  
 したら元のあるままの  
 自然をとり戻せるか。

報 籾 籠 屋 新 聞 社  
 TEL 0470-92-9912  
 FAX 0470-92-9986  
 鴨川市代 623



創刊 昭和  
 50年代 代り  
 13号は 1996  
 年9月5日に  
 15号の発行予  
 定日：又人々の  
 あるゆけがなり。  
 陣容：柳間人

そうしたことを各自考えて  
 みようと言う主旨でこの  
 「自然」と民族と文化のネット  
 ワーキング」は南かれた。  
 房総半島から丸人が加わっ  
 た。八月一日にスタートし、現在  
 も進行中である。初めの十日間  
 に行なわれた内容は以下である。

- ・リア政村と日本の製紙会社への非暴力直接運動のレポート
- ・竹細工講習会
- ・アボリジニ絵画展
- ・ラオス・メオ族の刺繍講習会
- ・川巻まき 写真展
- ・治元 工芸展
- ・三正坊の丘の奉納
- ・アフリカン・ドラマの蝶アウティング



尚、十月十日(土)十三日(日)の両日には  
 大塚一男の藍屋の絞り染めの  
 展示と稲垣オオの竹細工講  
 習会が行なわれる。  
 問合せ 0265-2845

後人転生  
 その気になつて島で暮  
 したかと思つと、十三年後  
 には、逃げる思いで島を  
 抜け出して来た。筆漏  
 が直接のきっかけにはなつたが  
 火種はその前から、いや、島に  
 向う前からくすぶっていた。  
 同じことは竹に閉しても言え  
 る。惚れた相手だったことは  
 島と同じである。が、二十年  
 後には「竹からもうジュウ」であ  
 りたい」と叫んで止まない。  
 この調子でいくと、北月反する  
 二律を共に味わわなければ  
 すまされないことになる。  
 「すべて有り」とこれに課  
 したなれの果てである。  
 そのとりとめな土の中で  
 円仁を求め、真清と  
 テルスウガウと、河口え海と、  
 あまずしに追う。救われた  
 のだろうか。秋だぬえ、

# 荷車の謡が

## 聞こえますか



十一月中にスタート

ナオが房総の鴨川から沖繩の八重山諸島まで荷車を引くことになった。時代に逆行する運送業と興こしたわけはない。「会おう、今度必ず」と言い合せて会わない友人知人が多い。なかには三十年も会えない人がいる。このままだでは引き別れにならしてしまふ。「人を訪ねる気を出してこなければ会えないよ」と土肥町の山田さんに言われて、その気になつた。言われて二年半がた

訪ねたい友人はワニサという。今回は寒い地方は遠慮して、ひたすら晴かい地を回すことにした。鴨川と出発して五里で久里浜港(横須賀市)に降り、そのあとは小田原、下田、土肥、富士宮、静岡、岡崎、名古屋、常滑、桑名と向う。途中、横道にそれることも考へられる。テント持参だから動きはジューになるはず。何に出会え、誰と会えるか、楽しみだ。欲深く回ろう。なにせ、三十年会えない

<房総→八重山>

と言ふことは、この先三十年会えないかもしれぬのだ。梅おけの底をツチ板くた気があるよなにお別れの準備をしようとはありませんか。

印が訪問予定地



沿道の宿や、荷車の謡が聞けたら声を掛けてやうて下さい。そして一宿一飯の恩義にあずかれればありがたい。尚、ナオが義にた

告!  
荷車のタビの途中発想を知りたい方はご連絡下さい。気が向いたらハガキでも出してください。

えられるものがあれば何でもやめて下さい。参考のため、手持ちの技をご披露します。

- おにい、おえん、ハロー作り
- 曲座作業。竹かご編み
- 血洗い。尺八。講談
- 「講談」はおすすめで、
- 「道」のことがあるが、ま

にお伝えします。

講師、師、見えたようなウソをこきこには注意し、

ましよう。念のため。

### 短 信

- 世良順・ナニの天使たち展 11月29日～12月5日 コロン銀花(新)
- 稲垣ナオ竹太展 10月18日～10月 日 砂田(市原)
- 今井トヲミ味噌コニヤト 10月26日(日) 鴨川・ナオ宅
- エイズ・エイ・イベント 11月29日(土) 13:00～17:00 谷地(若)
- 人形劇・しらべ・カエ 03 3200 0399
- 祈りの藍
- 全国染織作家創作展 10月15日～11月3日 徳島 086 6924
- バウルの唄・ベニカガの吟遊詩人 10月19日 静岡市中央公民館
- 10月25日 立川市女性総合センター
- 10月26日 YMC 青年会センター 030-709-3139

### 〈特集〉 『オノ、オノ』 各々通信の 時代

新聞も見あまた、テレビもあまらぬ、とあつちやま、オノ、オノ、他人の書く文字を目にしなさい。テレビは時間だ、ロボーと思ふ。そして野に出て深く息をする。それでも何かと見たいと思つてゐる人がいる。なら、こんな通信がよからう。今回とは、おまの六誌と紹介しよう。

▲ ▲ ▲

古屋 「オノ、オノ」  
〈野外活動研究会〉

創刊は1976年だから二十一年続いている。この七月にまた号が出た。名古屋岡子の路上を見て歩いて見て

た「ポート」である。野外活動研究会の季刊機関誌。67号の目次をいこうと。

乳母車は名古屋栄謙「  
島村博  
本市のほろろびトク」  
平田哲生  
「オノオノ」 前田幸三  
電柱にかけられたオノオノのスケッチが秀逸。この人の作品に数メートルに及び、街道絵巻きがある。圧巻だ。

「軒下のシニージム」武谷直子  
軒下の住まもの「パン、蜂、タヌキの置きもの……いろいろある  
数十人のメンバーがいつもモロモロとして歩いている。おそろしく挙動不審でつまつた人も多しと思ふ。

△ △ △

△ △ △

△ △ △

△ △ △

△ △ △

別府 「ケレ・ショートネット」  
（発行林まさみ）  
とにかく操かた、同じカゴ屋が発行しているとは思えないほど、本紙とはうべが違ふ。オセロの中から「労働芸術」の項をひいてみよう。

「……生活が大切です。生活ニポートです。マルセにデュニヤンはどう言つて……だと思ふ。すべての人はアーストであり、労働は芸術行為である。」  
ヨセフ・ボイスは言っている。

「……そして最後に、「生活も仕事も表現も別々のものではなく、生きていることはそのまま表現なのだ。自覚を持って。毎日カゴを作り、生活とくり返すこと。これが今の僕の表現。」

△ △ △

△ △ △

△ △ △

△ △ △

水俣 「いんずい」  
水俣病センター 相恩社  
オモイオモイ水俣病問題もカロシとまたせて我々に解まあかてくれる隔月刊誌。

番号特集と組んでいる。最新4号は「ドクエ」報告」その前の4号は「仕切綱」

「水俣病の魚をまきんと用心めしているけれども、人から効果を感じられるのは、安全に対する意味はありまじ」と答える。に「取る」と言われると心が騒ぐ仕切綱

水俣病の経験ととも、油の生物と人間との共存のルビとモセキ

しつづける人たちの記録である。少ない誌面でも丁寧な記事と書留くのはよからう。

申込先 水俣病センター 相恩社 0966-635800

△ △ △

東山山市 「かっぱ通信」  
北川かっぱの会  
つには市行政までもみ込んで、市内の北川を自分らの手でまもっていく会である。具体的には、川掃除から始まって、上流の浄水保全、緑道計画、川の生態系のシンボ、夏まつり……

高山市 「ヒガマ通信」  
山田塊也  
とにかくホニは僕在なり

大坂市 「スエムズ・ガーデン」  
×モリルキルトシニヤン  
キルトの展示を通じて、HIV感染症を世に知らせている。ハチニ病やPWNAの理解も人々に訴えている。紙面が足りない、スマン

△ △ △

△ △ △

△ △ △

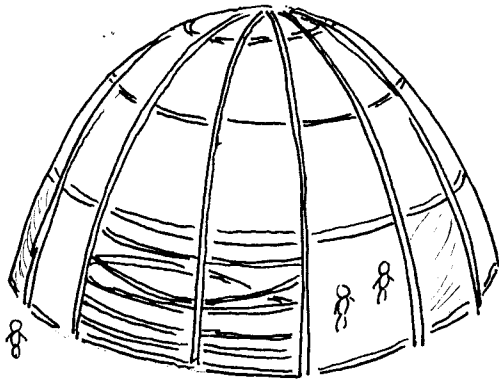
△ △ △



### 珍しくも 竹作品紹介コーナー

11月7日の三日間だけだが、竹ドームが展示される。正確に言うと、展示用スペースとしてドームが据えられるのだ。場所は夢の島(東京)。これ初めからゴジラなのはない。夢の島は旧ゴミ埋立地。現在はウォーター

こんな竹のドームがお目見えます



底直径 : 5m  
高さ : 4m50cm

店主のジビに  
手を合わせよう。

の往事ももってきた。

フロントとか言っちゃって  
青島都知事が世界都  
市博を中止させた銜。そ  
の一角で何と祭りが開  
かれ、テナカの丁A(農協)  
が何かを展示する。ウサン  
クサイ話だ。会期中に後  
退きまが目とくると言っ  
からリキが入ってしまっ  
超愛細公告、代理店が  
サイカツ破綻がミ屋にこ

### 読書

ハ三八年に入唐し  
八四七年に帰国  
するまでの十年  
に及ぶ紀行日記

### 千百年前が「入唐求法巡礼行記」

キこのうのよう

円仁著

私がこの本と向いた動機  
はトカラ沖の海上交通と  
文献の中かに指ったため  
あった。彼が帰路にたどり

たコースは朝鮮半島の南  
の海上であったが、日記にも  
島々の名が出てくる。では  
往路はどうだったのか

知りたかった。後路  
のことは巨文島の研究  
書ですごに知っていた。

この船は遭難し、二人名が  
生存し、船を解ま枝と組ん  
で二十三日間漂流する。その

この南島がどこのか  
気になる。いまのところ  
は不明である。  
そんなことわりから手にし

入唐に際し、二度難破  
している。一回目の五三船  
には百四十余名が乗って  
いた。(円仁は別の船だ)

向に二人の僧を、残して餓死  
する。二人は「南嶋人」に  
手厚く加護されて後に  
大宰府に戻ってくる。

そんなことわりから手にし  
た本であったが、円仁の  
すなおな観察眼は時局  
を越えてこちらに迫ってきた。

### 社告

当社では以下の良書・良CD  
取扱っております。お申込みは  
同封の振替用紙で。残り  
少なし、早めに、とほいかな。田  
粕垣尚友著 皇社 2575  
17年目のカラ、平島 " 2266  
CD・水の島 山崎浩一 3270  
CD・青いくに

「水の島」はギターと歌が「木」内田  
ハロカシヨウが「木」榊山  
サントカールが「木」ジミー宮下の三人  
水と木と海に、自然の美しさ、時に、  
時々のメッセージを伝える  
「青いくに」は今井トータの三線

申込み先 籠屋新聞社  
郵便振替  
00160-1-11979

特に新羅人のマジナルな  
活字は目とみはる。いまだ  
希短が出没してない時代で  
はあったが、海上の交通の  
激しきは想像以上である。  
円仁の眼を通したのが、か  
な東シナ海を想ったのだ。